



第2回全北陸大会

2015年9月20日◎
新潟市東総合スポーツセンター

アクセス：電車 JR 白新線「東新潟駅」下車徒歩 25 分
バス 新潟駅南口発はなみずき線 450 系統（木戸病院線）
「はなみずき」下車徒歩 3 分

昨年からはまった一番新しいブロック大会の全北陸大会。さらに激戦が予想される第2回目の今年は、申し込みの締め切り前から多くの強豪選手が名乗りを上げている。記念すべき昨年の大会を振り返ると同時に、現段階で出場が確定している選手を紹介する。



①昨年の軽量級決勝は東京城南川崎支部の incoming 勇斗が総本部の志村朱々璃をパワーでねじ伏せた。②無差別級は東京城南川崎支部の平賀斉彦が兵庫中央支部の兼光秀治をトリッキーな技で翻弄し優勝。③古川章師範の音楽と武道をコラボレーションした派手な演武も見どころの一つだ。④東京城南川崎支部勢の圧勝に終わった前大会。今年は誰が王座を奪うのか

新

極真会が名実ともに全国組織となるためには、日本全国すべての地域でのブ

ック大会の開催が必須条件だった。その条件をクリアするべく、昨年からは開始された全北陸大会。今年は大会のスケールもグレードアップし、強豪選手が名乗りを上げている。

まずは一般無差別級。昨年準優勝の兼光秀治（兵庫中央）、昨年3位の長谷川翔平（千葉南）が雪辱に名乗りを上げた。さらに今年の全中部大会重量級を制した賀数拓海（東京東）、第10回新潟大会3位の西澤諒（埼玉武蔵）、今年の全中部大会軽量級3位の鶴巻学（新潟）、昨年の全北陸大会軽量級準優勝の志村朱々璃（総本部）、菊池誠也（新潟）らが参戦。

軽量級は昨年の大会で猛威をふるい、二階級を制覇した東京城南川崎支部から郷内一馬が送り込まれ、さらに東京東支部からは全中部大会軽量級準優勝の金井卓、同じく3位の金井渉、その他、大山裕城（新潟）といった顔ぶれが揃った。

女子はまだ未確定だが、現時点で全中部大会女子3位の谷口亜翠佳（東京ベイ港）がエントリーしている。

注目選手

「一般無差別級」



兼光秀治 (兵庫中央支部)



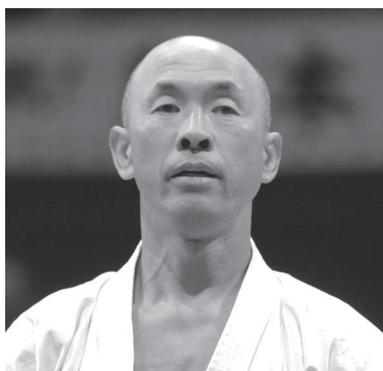
長谷川翔平 (千葉南支部)



賀数拓海 (東京東支部)



西澤諒 (埼玉武蔵支部)



鶴巻学 (新潟支部)



志村朱々璃 (総本部)

「一般軽量級」



郷内一馬
(東京城南川崎支部)

「女子」



谷口亜翠佳
(東京ベイ港支部)



大会主催者
古川章
(新潟支部 支部長)

「日本の伝統文化の魅力を 発信していきたいと思います」

「JFKO 全日本大会が誕生した昨年、フルコンタクト空手のオリンピック競技化を見据えて全北陸大会も誕生しました。それまで新極真会では北海道、東北、関東、中部、関西、中国、四国、九州とブロック大会が開催されてきましたが、北陸地区（新潟、富山、石川、福井の4県）のみ、とり残された形となっていました。全北陸大会の開催によって、フルコンタクト空手のオリンピック競技化への第一歩である体協への加盟も現実味を帯びてきました。

今年は全日本選手権が開催されないせいか、予想以上の強豪選手が名乗りをあげてくれました。どんな素晴らしいドラマが起きるのか、主催者として大会の開催が、今か今かと待ち遠しく感じられます。また、今大会は会場内に茶道のブースも設けます。東京オリンピックでは茶道で世界の方々をおもてなしすることも決定しています。北陸から世界に向けて、日本の伝統文化の魅力を、余すところなく発信していきたいと思います」